◇【リポート vol.1】グループ・インタビュー「きたかみ子どもフェスタ実行委員」編

北上市×さくらホール feat.ツガワの挑戦… vol.1
グループ・インタビュー「きたかみ子どもフェスタ実行委員」編
2024.2.24　さくらホール feat.ツガワ　サポーターズルーム

泣く子どもも親御さんも
文化芸術の楽しさを
みんなで享受できるまちへ

乳幼児のいるご家族も、気軽にコンサートを楽しめるホールへ

　コンサートや演劇などの公演を観に行きたいけど、小さな子どもがいると泣いたり騒いだりして周りのお客さんの迷惑になるので観に行けない……。

　そんな親御さんたちの悩みをさまざまなメディアでもよく見聞きします。

　「さくらホール feat.ツガワ」（以下「さくらホール」）では、2025 年 2 月に 0 ～ 2 歳半とその保護者の方を対象とした体験型の音楽イベント「小さな小さな人たちと これから生まれる人たちへ　うたのたね～おんがくのはじまり～」（入場無料）を開催。正面玄関から入場口まで段差なしでベビーカーで移動できたり、託児サービス

を提供したりするなどの取り組みは行っていますが、一般のコンサートや演劇などの公演では、小さなお子さんのいるご家族にどのような配慮が望ましいのでしょうか。

▲2025 年 2 月に開催した音楽イベント「小さな小さな人たちと　これから生まれる人たちへ　うたのたね〜おんがくのはじまり〜」のイメージ

北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して、ふだんは「ホールに来づらい」方たちに話をうかがうグループ・インタビュー。第 1 回は、「小さな子どもがいると泣いたり騒いだりして周りのお客さんの迷惑になるのでホールに行けない」というようなお悩みに応えるため、子育て中の方の「声」を聴かせていただくことに。協力いただいたのは、「きたかみ子どもフェスタ」というイベントを開催している実行委員のみなさんです。

ママとパパがつくる「きたかみ子どもフェスタ」とは？

「きたかみ子どもフェスタ」は、子どもの“好き”が見つかる機会とママやパパの子育てがもっと楽しくなるアレ・コレにつながる場づくりを目指して、2023 年 9 月 9 日に開催されました。

▲第 2 回の「きたかみ子どもフェスタ」のチラシ

北上市保健・子育て支援複合施設 hoKko（ほっこ）を会場に行われた同イベントには、子どもの“好き”や子育てにかかわる 40 の事業者が出展（さくらホールもたくさんの楽器を持って参加させていただきました！）。さらにアート・ダンス・体操・料理・英会話などのワークショップやキッチンカーも登場。来場者は 2,000 人を超え

大盛況となり、さっそく 2024 年 12 月 8 日には第 2 回も開催されるなど北上市民にも定着し、人気のイベントとしてすくすく育っています。

▲きたかみ子どもフェスタ実行委員のみなさん

このイベントを手掛けているのが、なんと北上市民の有志 9 名でつくる実行委員のみなさんで、しかも子育て真っ最中の方々。というわけで今回のグループ・インタビューはその実行委員を代表して 3 名の方に話をうかがいました。

泣いたお子さんと親御さんに寄り添うサービスを

話をうかがっていてまずビックリしたのが、「きたかみ子どもフェスタ」の取り組みを語るときの実行委員 3 名の方のイキイキとした表情。みなさん第 1 回から自主的に参加し、ボランティアで実行委員を務められているそうですが、子どもはもちろんママやパパの楽しい育児にもつながるイベントにしようと、子ども・ママ・パパの立場で楽しみながらさまざまなチャレンジをされている点に、参加したさくらホールのスタッフも刺激を受けた様子。

また、さくらホールの印象についてうかがうと 3 名ともさくらホールをよく利用されているそう。子どもたちがアーティスト先生と交流しながら「ダンス」や「うた」を体験する「キッザート」という公演事業や、子どもが自由な遊びを通して“自分”を育む「つの子のアトリエ」といった一般の利用者がさくらホールの施設を借りて開催している教室など、参加して子どもにも好評だったイベントや教室を次々とあげてくださいました。

その中で 2025 年 2 月に 0 ～ 2 歳半とその保護者の方を対象とした音楽イベントに参加された方がいて、話題はそうしたイベントで子どもが泣いたり騒いだりしたときのお母さんの気持ちにシフト。当日のイベント自体は楽しかったそうですが、会場が暗かったため、入り口で泣き出すお子さんもいたそう。

経験を積んだ方なら、そんなとき「ちょっと気分転換させて入ろう」「少しずつ慣らして入ろう」など、いろいろな対応ができるのかもしれません。しかし、親になったばかりの方だと、会場で子どもに泣かれたらどうすることもできず、「子ども向けのイベントに行っても楽しませることが難しいと考えてしまうのでは」という意見には、みなさん共感。

2 月のイベントでは、無料の託児サービス（2 歳以上）も用意はしていましたが、困っている親御さんのお悩みをその場で解決する「子育てアドバイザーを会場内に配置する」「小さい子どもが遊んで気分転換できるスペースを会場内に設ける」といった具体的なアイディアが次々と飛び出しました。

「子育てアドバイザー」については、今回参加してくださった 3 名とも子育て真っ最中で、子どもが泣いたり騒いだりして困っているお母さんを見るといろいろアドバイスをしてあげたくなるそう。しかし、「おせっかいおばさんだと思われて、逆に嫌がられるのでは（笑）」という配慮とともに、知らない人よりも専門の人に相談する方が子どもに泣かれて困っている親御さんも「気がラクなのでは」という気遣いも。

子どもも大人も楽しめるアイディア続々！

また、親になったばかりの人だと小さな子どもを連れてイベントや公演を観に行く経験もほとんどないため、「親子で楽しむためのマナー講座のようなものがあると安心なのでは」といった意見も。

その他にも、さくらホールでは保育園や幼稚園の遠足を受け入れており、事前予約すれば館内のステージ裏まで見学ができます。3 名の方の中には保育士さんもいて、子どもたちも「喜んでいる」と太鼓判。ちなみに遠足の際にさくらホールの敷地内で、一部の保育士さんや遊びの専門家だけが気づいていて、工作などに使える秘密のアイテムをゲットできるスポットがあるそうで、「それを探すのも楽しい（笑）」そう。

さらに、「防災イベントとからめて館内でキャンプができたら楽しい」「虫が嫌いな親も館内なら参加しやすい」といったアイディアや、さくらホールが検討している子ども向けのイベントアイディアを披露すると「すごい！」「素晴らしい！」「私が行きたい！」と二の足を踏んでいる担当者の背中を押す言葉が次々飛び出すなど、第 1 回のグループ・インタビューは大いに盛り上がり、終了となりました。

すべての人のすがすがしい笑顔と出会うために

どうなるか不安のまま手探りでスタートした第 1 回のグループ・インタビューでしたが、「きたかみ子どもフェスタ」の実行委員の役割も「楽しみながらやっている」と語る明るく前向きな 3 名の方の率直な意見や、のびのびとしたアイディアをうかがうことができて、たくさんの気づきのあるグループ・インタビューとなりました。

協力いただいた「きたかみ子どもフェスタ」の実行委員のみなさま、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました！

リポートの最後は、参加者がおっしゃった言葉から。

「去年、寒くなりかけたとき、さくらホールに行ったら何かの発表会があって、小さなお子さんからおじいちゃんおばあちゃんまで、たくさんの人がワーってさくらホールから出てきたんです。そのとき、みなさんがすがすがしい、いい顔をされていて私、泣きそうになりました（笑） なんて、いい施設なんだと思って（笑） 『こんないい部屋、250 円で 1 時間借りられるの？』と東京の友達もビックリしていて、それくらい素晴らしい施設だと思うので、私も子どもも個人的にこれからもお世話になります（笑)」

北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して取り組む今回のプロジェクト。その先に、すべての人のすがすがしい笑顔が待っていると思うと、やる気もさらにふくらむさくらホールのスタッフたちでした。

◇「きたかみ子どもフェスタ」の取り組みはこちら！
https://www.instagram.com/kitakami_kodomofesta/